

保存会だより

御会
人保
形・存
祭保
行高
穂船
発穂

お祭り展に御船、

人形飾り大活躍

国の補助を受けて安曇野の祭を紹介し、観光の振興や地域の人々のつながりを活性化する事業が今年から三年計画で始まった。「安曇野のお祭り展」実行委員会（石田益雄委員長）が主催となり、一年目は市内の御船を奉納する祭の紹介、二年目は市内に点在する道祖神の祭を紹介、三年目は市内の無形文化財などその他の祭を紹介するもので、今年は会期を十月二十日から十二月二日の間、会場は安曇野市豊科郷土博物館、豊科交流学习センター「きぼう」、穂高交流学习センター「みらい」で行われ「秋季特別展 安曇野のお祭り展Ⅰ」オフネがつなぐ地域の輪」と題して様々な催しが開かれた。特に「みらい」では穂高神社の御船祭を中心に紹介されている。その前段開催として穂高神社例祭で奉納された子供船を拝借し、九月三十日から十月六日まで展示された。初日は、会長先導のもと「安曇野の御船を広めるために協力をお願いします。」と述べられ、御船を主導する穂高区睦友社社長の水上良和さんは「穂高の御船の素晴らしさを感じてもらいたい。」と期待をふくらませていた。御船曳行の賑わいを再現するため、一般に曳き手を募ってお囃子も奏でながら神



甲を身につけ刀を手に「格好いいー」と大喜びで写真を撮り「年賀状に使えるかな」と楽しんでいた。期間中「みらい」では、県が保存する「穂高神社御船祭」の記録映像が常時ハイビジョンで放映され、訪れる人たちは興味深く見入っていた。このほか「きぼう」では安曇野市内の神社で奉納される御船の写真と法被、三郷中萱の御船飾り人形が展示され、豊科郷土博物館においては御船祭の歴史を物語る古文書と共に、市内神社の宵祭に奉納される角燈籠と飾り幕を付けた御船型が展示され、室内宵祭の雰囲気を感じ取ることができた。この間の三カ所における催しは左記表のとおり

穂高交流学习センター「みらい」	
十一月十日午前十時	御船祭お囃子の演奏会
午後二時	民俗学者三田村佳子氏による記念講演会
豊科交流学习センター「きぼう」	
十一月二十五日	三郷中萱熊野神社の御船展示説明会
午前十時	安曇野の祭りフネの構造や歴史の解説
安曇野市豊科郷土博物館	
十二月二日午前十時	堀金岩原山神社の御船担ぎ体験

第九回、研修旅行に彦根城、琵琶湖竹生島を訪ねて

本年度第九回目を数える研修旅行が、去る七月二十三日四十人の参加を得て行われた。今回は大河ドラマ「平清盛」に因み、「平経正」が先勝祈願に琵琶を奏したと伝えられ平家由縁の地とされる琵琶湖竹生島と国宝彦根城見学の旅となった。前夜からの雨もからりとあがり、早朝五時出発となった一行がまず向かった先は徳川幕府大老であった井伊家の城、彦根城。ガイドの先導について四十七本の



「いろは松」を背に井伊大老の歌碑説明を聞き馬屋を見学。「この馬は道産子だね」と馬の出来映えに関心を示していた。奥へ進むと積み方の異なる石垣（はちまき石垣・腰巻き石垣）の説明を受けた。更に「表門山道」を通じて「おとし橋」を見る、敵の侵入時に渡れぬよう落とし易くしてある作りや、左右屋根の「棟入り」「つま入り」という違った作りの天秤櫓はこの城だけのもので重要文化財となっており、これと「時報鐘」には音の響きをよくするため小判を入れて作った「天下普請」という話を聞き、参加者は「ほう！よくこしらえたもんだ」と感銘深く見入っていた。「ちような」をつかった材木で出来た太古門を通り「着見台」へ、右は中山道左は琵琶湖と百八十度のパノラマで見張っていたことを聞きつつ、眺望のすごさに暫く暑さも忘れていた。本丸では豪雪にそなえ、曲

がった独特の梁に感心し、傾斜角度六十二度の急な階段を上り「鉄砲狭間」や「矢狭間」（鉄砲や矢を打つための穴）を見ながら天守閣へ、最上階の隠し部屋など説明を聞きつつ



「良くこんな急な階段を昇降したもんだね」と手摺りに捕まりながらゆくりと降りていた。その後裏の「からめて」の狭い出口や黒門山道の不規則な石階段を降りながら、敵の攻めを防げるよう悉く作られていることに改めて納得していた。そしてこの城の最後に庭園「玄宮園」を眺めながらバスへ戻る。この間八十分の長時間であったがガイドの丁寧な説明により充実した見学であった。

昼食は、竹生島渡航乗船のためゆくり味わう暇もなく、急いで彦根棧橋へ、船に揺られること約三十分、花崗岩で出来ているこの島は今では川鵜や鷺等が多く生息する島となっており、はじめに百六十五段の急な石段を登り「宝厳寺」を見学、国宝となる唐門は豊臣秀吉が大坂城の極楽橋を寄進移築したものと伝えられる。又舟廊下を渡り国宝都久夫島神社を参拝し、桃山美術を思わせる御本殿を拝観し一行はその絢爛豪華さに「たいしたもんだ」と見入っていた。帰路の舟では波静かなる琵琶湖からの彦根城を眺めつつこの旅を終えることとなった。



今回の研修旅行では昨年に引き続いての滋賀県であり、趣旨は彦根城と竹生島にしほられ、「平清盛」とは少しかけ離れた感があったが、人形飾り物の場面には多い戦国時代、彦根の歴史や風土にふれることが出来大変好評であった。

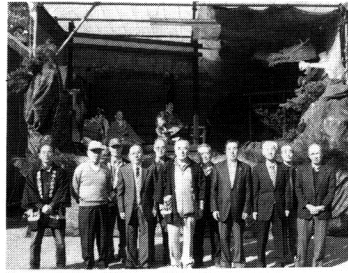
文化祭で大河ドラマ題材に三場面

保存会事業で、日頃の研修成果を披露する小平、牛流、保

尊の三教室による文化祭の穂高人形飾り物展は十月三十日より穂高神社事務所西側の建屋制作から始まった。二日間をかりて建屋が完成、続いて十一月二日朝九時から飾り物の開会式が始まった。

場面は各教室とも大河ドラマ「平清盛」にちなんでいる。

牛流教室では「平景清の鍛引き」の場面で教室の竹内さんは「人形の配置に苦労した。また船の制作が難しかった。」と語っていた。



保尊教室

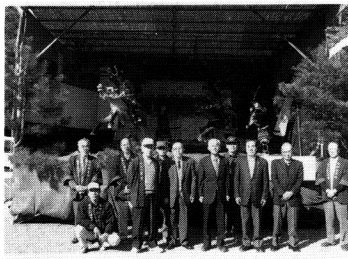
保尊教室では、竹生島物語の場面で四つの構図を描き後継者が一つを選び、その図で竜や背景など分担して制作にあたったことや竜の制作には、教室の中島さんが一ヶ月以上かけて作っていた熱心さが話された。小平教室では保元の乱で平家と源氏が身内同士で戦ったことから赤と白旗で敵味方の区別をした。今の運

動会の紅白の始まりともいう場面。教室の藤原さんは「人形の表情が一番苦労した。構想を練ることが大変だった。」と語っていた。

天候にも恵まれた連休中、七五三参りや観光客で訪れた人たちは「どれもみんな見事だ。立派だね。よくできている。竜だ。」と見入り、背景に写真撮影などを楽しみ、展示期



牛流教室



小平教室

間は十一月十五日まで行われた。

恒例となった人形制作講座に

特色のある展開

子供たちへ人形制作の作業に直接に触れてもらい将来の後継者発掘につなげてゆくことを願って始まった若年層人形制作講座が小平、牛流、保尊の三教室で各地元区育成会を通じ、開かれている。この講座は年一〜二回子供たちに楽しく行える行事として効果を上げていく。毎年十二月にしめ縄講習会と餅つき大会に合わせて行っている等々力町区では人形の着付けに最初は「気持ち悪い」と言い

ながらもやってみるうちに次第に興味を示し鎧付けにはだんだん強そうに見えるくる姿に歓声が沸き上がった。又新年会に合わせて行った穂高区田中では体の部品を組み立てて着付けする作業で上級生が主になって行った。とても関心が高く「今度は部品制作からやってみよう」と興味深げに言っ



いた。穂高町区公民館では親子で参加し鎧の制作が行われ、段ボールを工夫して鉄板のように仕上げ、穴を開け紐を通す細かい作業ではあったが子供が飽きると親も手を出したりしながら制作に取り組んでいた。

若年層として小学生児童が受けるこの講座には必ず各地区の育成会による協力が欠



かせない。保存会ではこれからも多くの年中行事に繰り入れ
てもらおうようお願いしていきたいとしている。

尚、右記若年層講座の日程内容等は左記表の通り。

日時	場 所	講 師	参加人数	内 容
23・12・17	等々力町区公民館	牛流教室	22人	人形の着付け
24・1・7	田中公民館	保尊教室	35人	三体の人形作り
24・10・8	穂高町区公民館	小平教室	21人	胴鎧の製作

安曇野観光に

一役買っている穂高人形

四月八日J R穂高駅改札の横に、穂高人形制作小平教室受講者たちが制作した「川中島合戦」の人形が飾られている。

常に穂高駅周辺の美化に取り組んでいる小林宏さんはこの小平教室の一員で「穂高駅構内にも伝統文化である人形飾り物を」とはたらきかけていたもの。大阪から来ていた観光客夫婦は「観光地の名所は雑誌や地元パンフレットなど一辺倒、駅改札は只通り過ぎるだけなのだけれど、ここにあるのはよい宣伝になるのでは?」と見返していた。小林さんは、「この人形を通じてお祭りを見に来てくれる人が増えてほしい」と言っていた。



九回目を迎えた人形飾り

地元の子供たちへ穂高人形飾り物の意識付けをする目的で行う事業で穂高南小学校校長室前への飾り物が、三月二十



九日午後一時から小平教室の藤原国広さん他六名の後継者らによって制作展示が行われた。

これまでに九回の飾り換えが小平、牛流、保尊三教室の後継者らによってなされており内容は、特に小学校へ飾るということで童話や伝記、おとぎ話、伝説などで戦ものを除いた物語場面の人形飾りを行ってきた中で今回は「足柄山の金太郎」の場面が飾られた。宮澤純子校長先生からは「穂高じゃなさや出来ない。子供たちの勉強と体を鍛える励みとなる話が出来た。これから一年間楽しませてもらいます。」と喜んでいた。

着物ご寄進御礼

昨年に引き続き人形や御船の飾り物に必要な着物の寄付を多くの方々にお寄せいただき心より御礼申し上げます。

これまでに着物類は、帯、袴、羽織、反物、下駄、草履などの他蚊帳、兜模擬刀など全部で七十六点に及びました。尚、寄付者名は左記の通り。(順不同)

▼松本市 輪湖信久様、諸隈陽子様、小松きみ子様、
西山武宜様 ▼大町市 松澤実様 ▼安曇野市 両角幸様、
細野圭子様、望月博子様、臼井章様、横山松子様

誤掲載のお詫び

前号で着物寄付者名で誤りがありましたので訂正と共にお詫び申し上げます。×輪湖信久様 ○輪湖信久様

尚、着物についてのご寄付は引き続き受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。